



1



2

1白高予餞式。在校生から卒業生にエールが送られた 2白女子餞会。小室希さんに書道部が書いたメッセージ付きの国旗を手渡した 3白高卒業式 4文化祭に集まった、定時制課程中心校の在校生や同窓生、先生で記念撮影 5白女卒業式では多くの卒業生が涙であふれていた(2010年4月号の表紙を飾った)



3



4



5

それぞれの予餞式
在校生から3年生へ

統合まで3カ月をきり、センター試験を目前に控えた1月7日、白高の「予餞式」が行われた。わずか15分の短い時間だったが、在校生から3年生へ普段は言えない感謝の言葉やエール交換が行われた。

1月27日には、白女の「予餞会」が開催された。後輩たちから感謝の気持ちを込めた、ビデオレターや出し物が披露された。約2時間にわたる予餞会は、高校生活残り1カ月となった3年生にとって、友達とかわいい後輩たち、そして先生たちと一緒に振り返ることができる催しとなった。卒業式では3年生の「涙」が主役となるが、予餞会では「笑顔」が主役となった。

今年の予餞会ではもうひとつの主役があった。平成15年3月の卒業生、村田町出身の小室希

さんがバンクローバー(カナダ)冬季五輪(種目…スケルトン)に、白女史上初めて出場することになり、母校を訪れた。

2年前、母校である白女で教育実習を行った希さんは、今年卒業した3年生が1年生だった時に会合している。希さんは「白女3年間の良い思い出も悪い思い出も全部が、私にとって大切なものです。一緒に過ごした仲間も、今も私を支えてくれていてます。3年生は白女の卒業生であることを誇りに思っていて、次のステージでも頑張ってください。在校生の皆さんは、統合校の歴史を自分たちの力で作るんだという気持ちで頑張ってください」と、後輩たちに熱いメッセージを送った。希さんの結果は残念なものとなったが、これまで築き上げてきたものが無駄になっただけではない。次のステージでぜひ頑張ってくださいと思う。

最後の1ページ
両校最後の卒業式

3月1日、両校最後の卒業式がついに訪れた。最後の卒業生となった白高146人、白女229人は、汗と涙、思い出がいっぱい詰まった校舎に別れを告げ、新たな旅立ちを誓った。

在校生からの送辞では、「先輩たちが築き上げた伝統を忘れず、新白石高校に引き継ぎ未来につないでいきます」と、思い出とともに卒業生に送った。

卒業生からの答辞では、「最後の1年は本当に素晴らしいものになりました。この地で培った精神がきっと今後の力になると思います」と、決意を述べた。

両校の風景は対照的だった。式から涙であふれていた白女に対して、白高は冷静にこの時を受け止めていた。しかし、外には出さずとも、その秘めた思いは白女と同じだったと思う。

もうひとつの卒業
定時制課程中心校…閉講

卒業式後、白高では定時制課程中心校の閉講式が行われた。昭和23年に始まった定時制の歴史。当初は白石・刈田地区に8校あったが、次第に減り本年3月で大河原商高と統合、62年の歴史に幕を閉じた。4年前から募集を停止し、最後の4年生は7人。しかし、光り輝くように生徒も教員もその意識を持って活動し、文化祭や本年2月20日に行われた記念碑除幕式など、さまざまな行事に一生懸命に取り組んだ。この1年で、これまで以上に同窓生などとのつながりが強くなったのではないだろうか。「少ない人数をプラスにして一体感がありました。閉講の実感はまだないですが、本当に皆さんに感謝しています」と教頭の青山純さんはインタビューに答えてくれた。

1年を振り返って
最後は始まりの合図

この1年を振り返って思うこと、それは両校ともに最後一歩を飾るべく、さまざまな行事に精いっぱい取り組んでいたことである。特に3年生の思い出入れは強かった。白高の定期戦にしても、白女の三大祭にしても、思い出を残そうとその瞬間を大切に過ごしていた。

両校は最後の卒業生を送り出し、白高110年、白女99年の歴史に幕を閉じた。しかし、これが終わりではない。確かに校舎は解体され新しい校舎へと移るが、これまで生徒たちが培った両校の思いは、新生白石高校へ受け継がれる。

両校の卒業生たちは、統合の基礎を作り上げた。次は在校生たちが「これまでの伝統を引き継ぎ、新しい道」をつくり始める番である。

白女高祭「LAST 有終の美」

8月29・30日の両日、白女と白高の文化祭が開催され、多くの市民の皆さんや卒業生、保護者などが最後の文化祭に足を運んだ。

「LAST有終の美」と銘打った白女高祭では、展示や発表のほか、体育館では演劇などのステージ発表が行われた。一般公開終了後は、生徒だけによる恒例の「後日祭」が開催された。そして、バンド演奏やダンスなどで盛り上がり終演を迎えたころ、最後を惜む生徒の前に大きなケーキのプレゼントが登場! 齋藤美穂さん(3年生)の「最後の文化祭で大きなケーキをみんなで食べたい」という願いを、仙台市の洋菓子店がかねてくれたものだった。

美穂さんは「運ばれてきたケーキに、白女の校舎がとてもきれいにデザインされていて、うれしくて涙があふれてきました。人生の中で一番心に残る出来事になりました。本当にありがとうございました」と、流れる涙をふきながら話してくれた。



3



4



5



1



2

1サプライズプレゼントに驚く齋藤美穂さん(写真左)。ケーキは50×60センチ、クラスのみならず実行委員で分け合った(2009年10月号の表紙を飾った) 2恒例の後日祭は例年以上に盛り上がった 345生徒たちは白女最後の文化祭を思い思いに楽しんだ

はくりゅうぎい 白龍祭「最終龍美」

「最終龍美」と銘打った白高文化祭(白龍祭)も、白女に負けず劣らずの盛り上がりを見せた。生徒たちの熱い思いが詰まったライブやダンスに、会場は熱気の渦に包まれた。恒例の「ミス白高」では、女性顔負けのしぐさで会場を魅了し、大きな歓声があふき起こった。



●文化祭実行委員長 関谷海志さん
今までで一番盛り上がりを感じたと思います。3年生はいろいろとプレッシャーがあったと思いますが、最高の思い出を作ることができました。



▲熱い歌声に出演者と観客が一体となった



▲ミス白高優勝者の佐藤大輔さん